

2022 年度入学式・学長式辞

近江の地、彦根にも春が訪れ、キャンパスの桜も咲き誇り、春本番を迎えた本日ここに、令和四年度・滋賀県立大学並びに大学院の入学式を挙行し、学部入学生六二一名、編入生一六名、大学院入学生一三七名を迎えますことは、本学にとりまして誠に大きな慶びであります。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。滋賀県立大学を代表して、お慶びを申し上げるとともに、心から歓迎致します。

大学生・大学院生として、待ちに待った学生生活が始まります。新型コロナ禍の中ではありますが、充実した学生生活を送れるよう、大学として感染対策を徹底致します。新入生の皆さんにおかれては、感染のみならず健康に十分留意されて、勉学や課外活動などに精一杯取り組んで頂きたいと思ひます。

これからの学生生活を送る上で、皆さんに心掛けて頂きたいことは、物事をいろいろな角度から捉え、それらに関係付けて考えることです。例えば、「人間の健康」について考えると、看護学はもとより、心の健康の面からは心理学、さらに、医食同源と言われるように毎日の食べ物や居住環境の面からも捉えることができます。さらに、医療機器の面から考えると工学も関係します。今述べたいろいろな分野の教育研究が、本学で進められています。このことは、様々な分野に興味を持った人々が同じキャンパスに集っていることを意味します。

そのキャンパスでの同級生や先輩、そして、教職員など、多様な人々との出会いの中で、物事を多角的に捉えられるように、交流を深めて頂きたいと思ひます。興味や考え方の異なる人々とのつながりの中から、新たな気付きや学びが得られ、多様な価値観の時代に必要な「総合知」を得ることができると考えます。本学はそれを叶えることができる総合大学です。

本学のモットーである「キャンパスは琵琶湖。テキストは人間。」が示すように、大学のみならず、琵琶湖を擁する広大な滋賀の地もキャンパスです。そこで暮らす地域の方々との交流を通して、地域課題を取り上げ、その解決に取り組む学部横断的なプログラムも準備されています。このようなプログラムやクラブ・サークル活動など、いろいろな場を活用して、多くの友人を作り、共に切磋琢磨して、様々な切り口から学びを深めることを期待しています。

そして、「知と実践力」を培うとともに、これからの不安定、不確実、複雑、そして、曖昧と言われる予測不能な時代を生きていくために必要な、「学び続ける力」を学生時代に獲得してください。

本学での学生生活が、実り多く充実したものとなることを祈念して、式辞と致します。

令和四年四月七日

滋賀県立大学 学長 廣川 能嗣